

## 中国のお正月(春節)

上海駐在員事務所

舛本 誉人

「ニーハオ！」 今回は中国のお正月「春節」についてご紹介します。

「春節」とは旧暦でいう正月で、2017年は新暦の1月28日が春節(正月)にあたり、前後の1月27日(大晦日)から2月2日までが春節期間として法定休日とされています。また地方からの出稼ぎ労働者等へは、郷里で家族と過ごすための帰省期間として、春節期間前後の一週間程度も休暇として与えられるのが一般的となっています。

郷里へ帰省する人々が一斉に大移動するため、毎年交通機関等は大混雑となります。今年の春節における中国全体の交通機関利用者数は延べ29億人程度になる見込みで、ここ上海市においても市内の人口そのものが一度に移動してしまう程の約24百万人弱(2017年春節期間中の鉄道や飛行機で移動した人数)が大移動したようです。ちなみにこの人数は東京都人口の2倍近くに相当する凄まじい数であります。

さて、中国の春節の風物詩と言えば、夜になるとあちらこちらで上がる爆竹や花火です。これは魔除けや財をもたらす神を呼び込み、1年の生活をより良いものするための、中国人にとって重要な風習であると言えます。しかしながら、昨今では大気汚染を深刻化させる要因として、政府から自粛や禁止が呼びかけられており、特に上海市においては、今年こうした政府の呼びかけが徹底されたのか、市内中心部では全くと言って良いほど、爆竹や花火があがることはありませんでした。少し寂しい感じはしましたが、これも深刻な大気汚染問題を抱える中国にとっては仕方ないことなのかも知れません。

一方で、上海での観光スポットとして人気の高い「豫園」は、春節期間中も大盛り上がりでありました。春節を祝う夜などはランタンやライトアップがとても幻想的に映え、またメイン広場には今年の干支である鶏が大きくライトアップされ、鶏が鳴くたびに歓声が上がるなどの活況ぶりでした。春節期間中に上海へお越しの際は、人ごみに揉まれる覚悟は必要ですが、この豫園と、付近にある外灘の夜景をセットで観光されるのも良いかも知れません。

春節の最終日は旧暦の15日(元宵節)です。中国は全体的にこの日まで、どこかしら正月ムードに包まれており、企業活動が本格稼働するのはこの日以降となります。春節開始から約1ヵ月間弱、実に長期間に渡り企業活動が停滞する中国ならではのこうした春節事情、中国ビジネスの難しさの1つを目の当たりにした気がします。

上海市から花火や爆竹を禁止するメール通知



筆者撮影

春節の夜を祝う豫園



筆者撮影